



JFE システムズ 株式会社 [4832]

個人投資家向けオンライン会社説明会

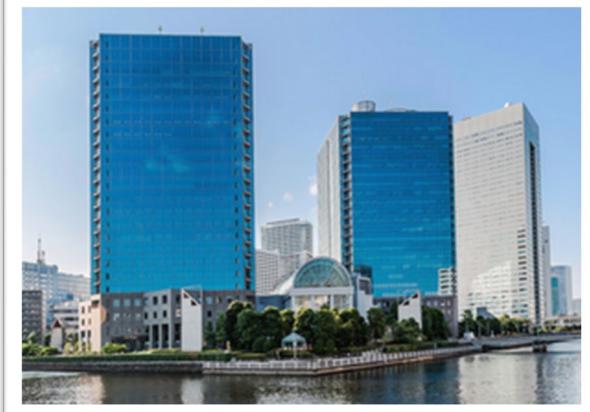
2021年7月7日

1. 会社・事業概要と決算情報

2. 株式関連情報（株価推移・配当等）

3. 当社のセールスポイント(＝新たなステージへ)

4. 成長戦略(次期中期経営計画)

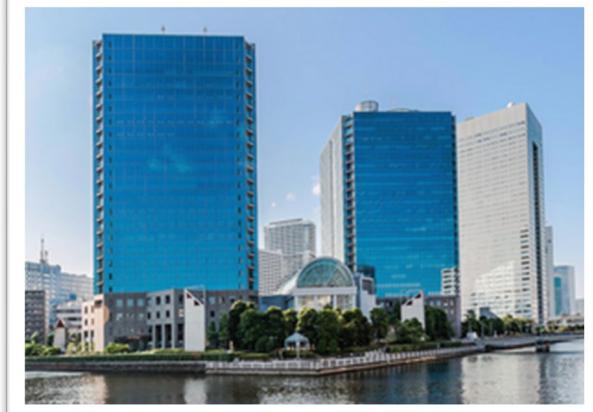


1. 会社・事業概要と決算情報

2. 株式関連情報（株価推移・配当等）

3. 当社のセールスポイント(＝新たなステージへ)

4. 成長戦略(次期中期経営計画)



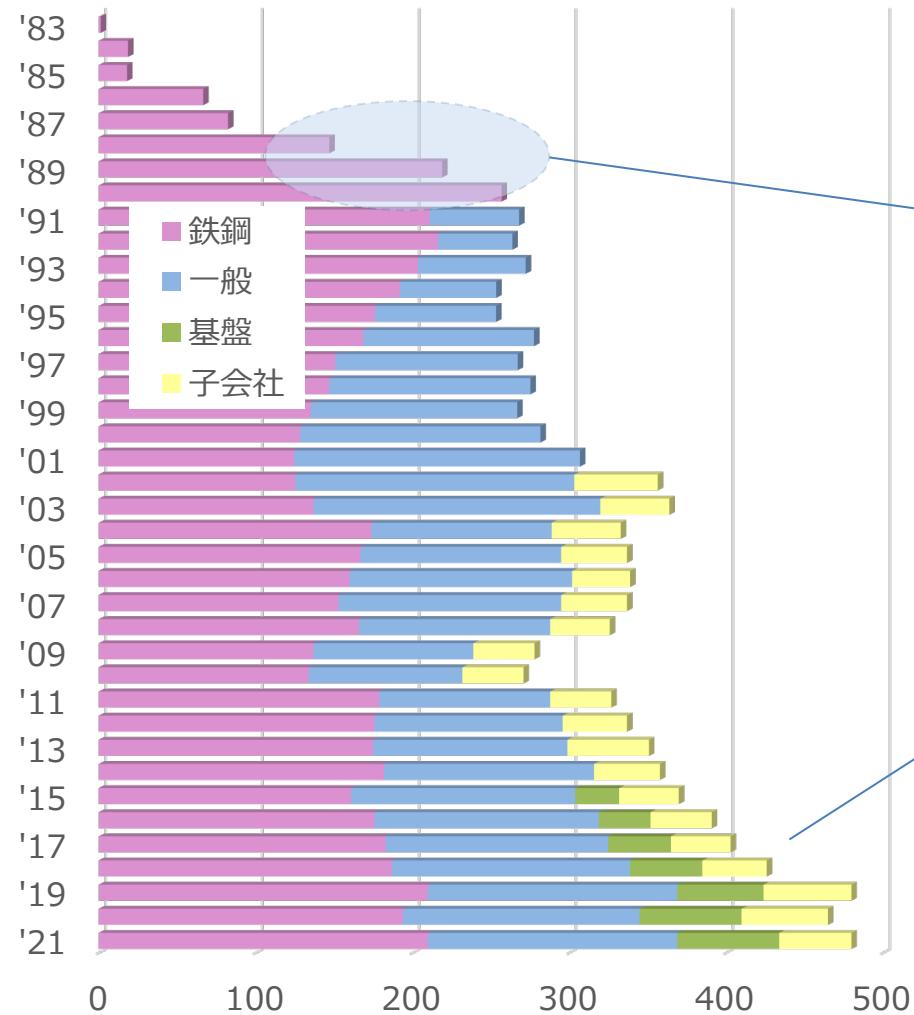
会社概要 -1. 基本情報



設立	1983年9月1日 (川崎製鉄のシステム部門から分離独立)
資本金	13.9億円
事業内容	情報システムのインテグレーションおよび運用・保守など
売上高	465億円(連結・2020年度実績)
従業員数	1,839人(連結・2021年3月末)
子会社	2社 JFEコムサービス(株) (株)アイエイエフコンサルティング

会社概要 -2.沿革

● 当社グループ売上高推移 (億円・2021年度は見通し)



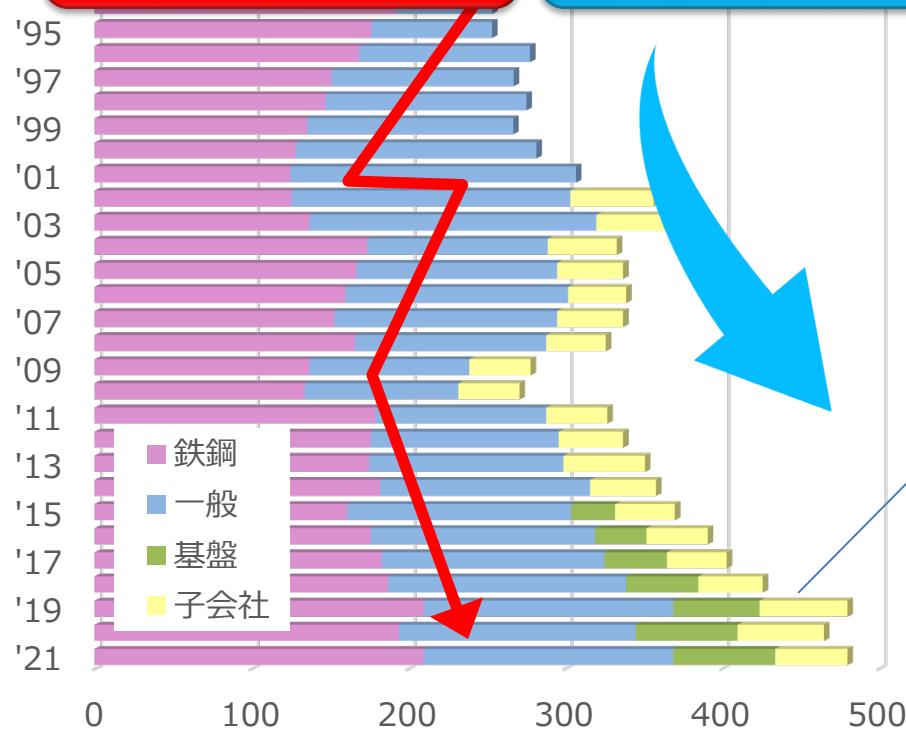
年度	出来事
1983	川鉄システム開発(現JFEシステムズ)株式会社設立
1986-	川崎製鉄(現JFEスチール)株式会社からシステム部門を順次受入れ
2001	東京証券取引所市場 第二部上場
2002	川商インフォメーションテクノロジー(現 JFEコムサービス)子会社化
2011	株式会社エクサ からJFEスチール向け開発・保守事業を承継
2018	首都圏4拠点を集約し、浜松町に本社を移転
2019	株式会社アイエイエフコンサルティング を子会社化

会社概要 -2.沿革

- 当社グループ売上高推移 (億円・2021年度は見通し)

景気の波に影響
されやすい鉄鋼向
システム開発の
売上増減を、

鉄鋼以外の顧客の
拡大、子会社化・
事業継承でカバーし
成長を持続！



年度	出来事
'83	川鉄システム開発(現JFEシステムズ)株式会社設立
'86-	川崎製鉄(現JFEスチール)株式会社からシステム部門を順次受入れ
2001	東京証券取引所市場第二部上場
2002	川商インフォメーションテクノロジー(現JFEコムサービス)子会社化
2011	株式会社エクサからJFEスチール向け開発・保守事業を承継
2018	首都圏4拠点を集約し、浜松町に本社を移転
2019	株式会社アイエイエフコンサルティングを子会社化

会社概要 -3.組織



部門	事業部・事業所	主な事業
一般顧客部門	ソリューション事業部	ERP(統合基幹業務システム)とその付帯PKGの構築
	食品システム事業部	食品業界向け自社パッケージによるシステム構築
	プロダクト事業部	電子帳票の自社パッケージによるシステム構築
	製造流通システム事業部	製造業(自動車等)、流通業等 顧客のシステム開発
	豊田事業所	中京地区に拠点をもつ顧客のシステム開発
	金融システム事業部	金融業(銀行、カード、損保等) 顧客のシステム開発
	関西事業所	関西地区に拠点をもつ顧客のシステム開発
鉄鋼部門	製鉄所システムプロジェクト	JFEスチール各製鉄所のシステム統一PJ
	東京・東日本・西日本・中部 各事業所	JFEスチール本社・各製鉄所(*)のシステム開発 (*=千葉、京浜、倉敷、福山、中部[知多])
	鉄鋼関連事業部	JFEスチールグループ子会社向けのシステム開発
基盤部門	基盤事業部	システムインフラ(サーバ、NW)、情報セキュリティの整備

ソリューション・プロダクト外事業；パッケージ化された製品を単体、もしくは組み合わせてシステムを構築
ビジネスシステム事業；顧客の要望をもとに、それに見合ったシステムを開発

決算情報 -1.2020年度決算(損益概要)



- ◆ コロナ禍での顧客のIT投資の停滞などが主因で減収減益。
- ◆ 経費等のコスト削減および年度後半での挽回が奏功し、経常利益は前年比△ 1 億円まで回復。

単位：百万円

	2019年度 実績	2020年度 実績	増減	
			金額	率
売上高	47,953	46,468	△1,486	△3.1%
営業利益	4,803	4,666	△137	△2.9%
経常利益	4,803	4,698	△105	△2.2%
(経常利益率)	10.0%	10.1%	+0.1ポイント	
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,181	3,086	△95	△3.0%

決算情報 -2.2021年度見通し(損益概要)



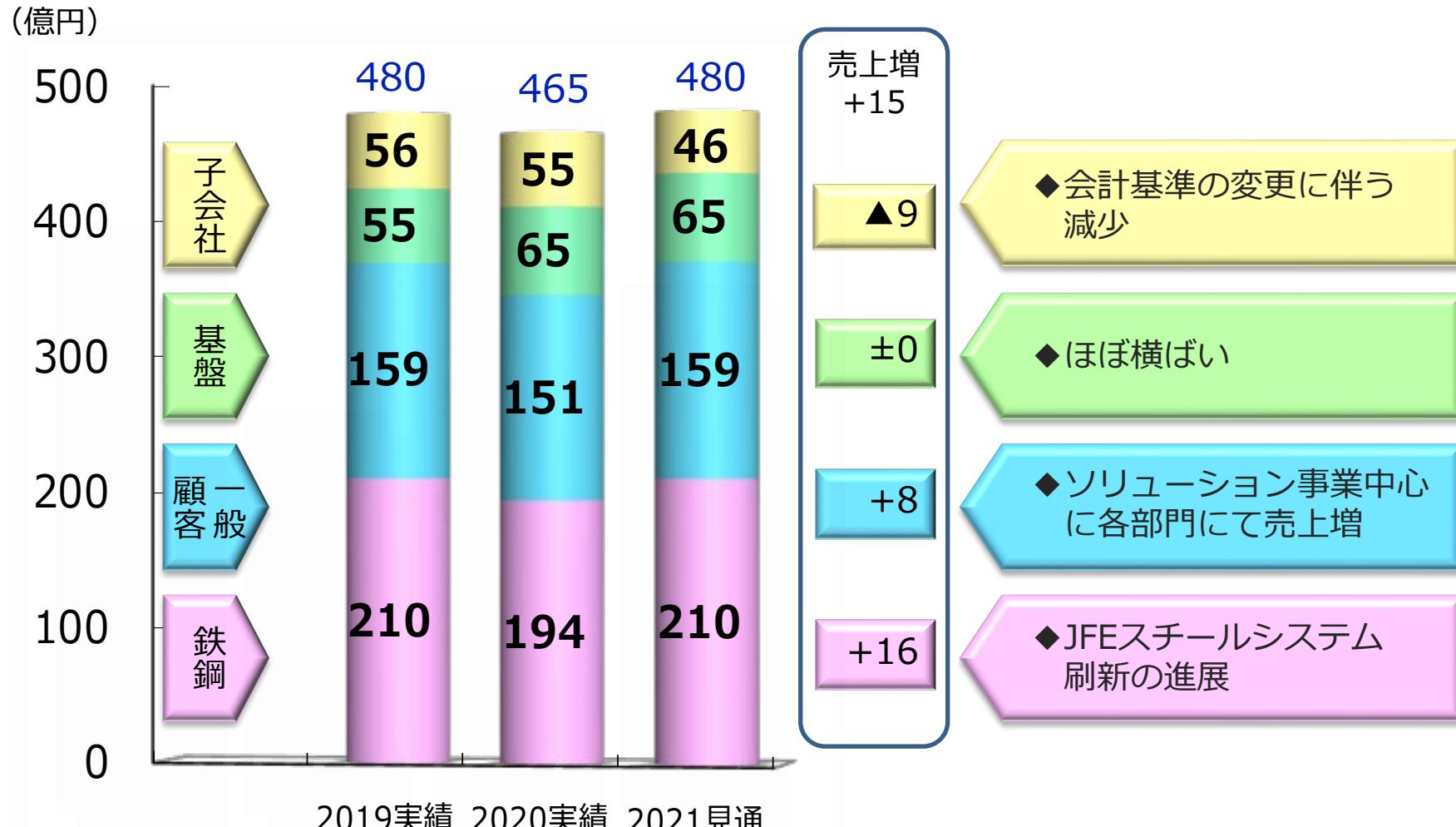
- ◆ 売上高、経常利益ともに過去最高であった2019年度の水準まで回復の見通し。

単位：百万円

	2020年度 実績	2021年度 見通し	増減	
			金額	率
売上高	46,468	48,000	+ 1,532	+3.3%
営業利益	4,666	4,760	+94	+2.0%
経常利益	4,698	4,800	+102	+2.2%
(経常利益率)	10.1%	10.0%	△0.1ポイント	
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,086	3,100	+14	+0.5%

決算情報 -3.2021年度見通し(部門別売上)

- ◆ 主力事業である鉄鋼・一般顧客向けを中心に売上回復



決算情報 -4. 売上・利益の推移(2011-)

- ◆ 昨年はコロナ禍も一定の収益を確保し、売上500億円弱、経常利益50億円弱の規模に到達・定着
- ◆ 利益率はこの8年間で約4倍に。(ROS; 2.6%['11]→10.1%['20])



- ◆ 近年の収益拡大に伴い、強固な財務基盤・収益体制を確立

自己資本比率

56.4%

(2021年3月末)

ROE(自己資本利益率)

16.1%

(2021年3月期)

1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント(＝新たなステージへ)
4. 成長戦略(次期中期経営計画)

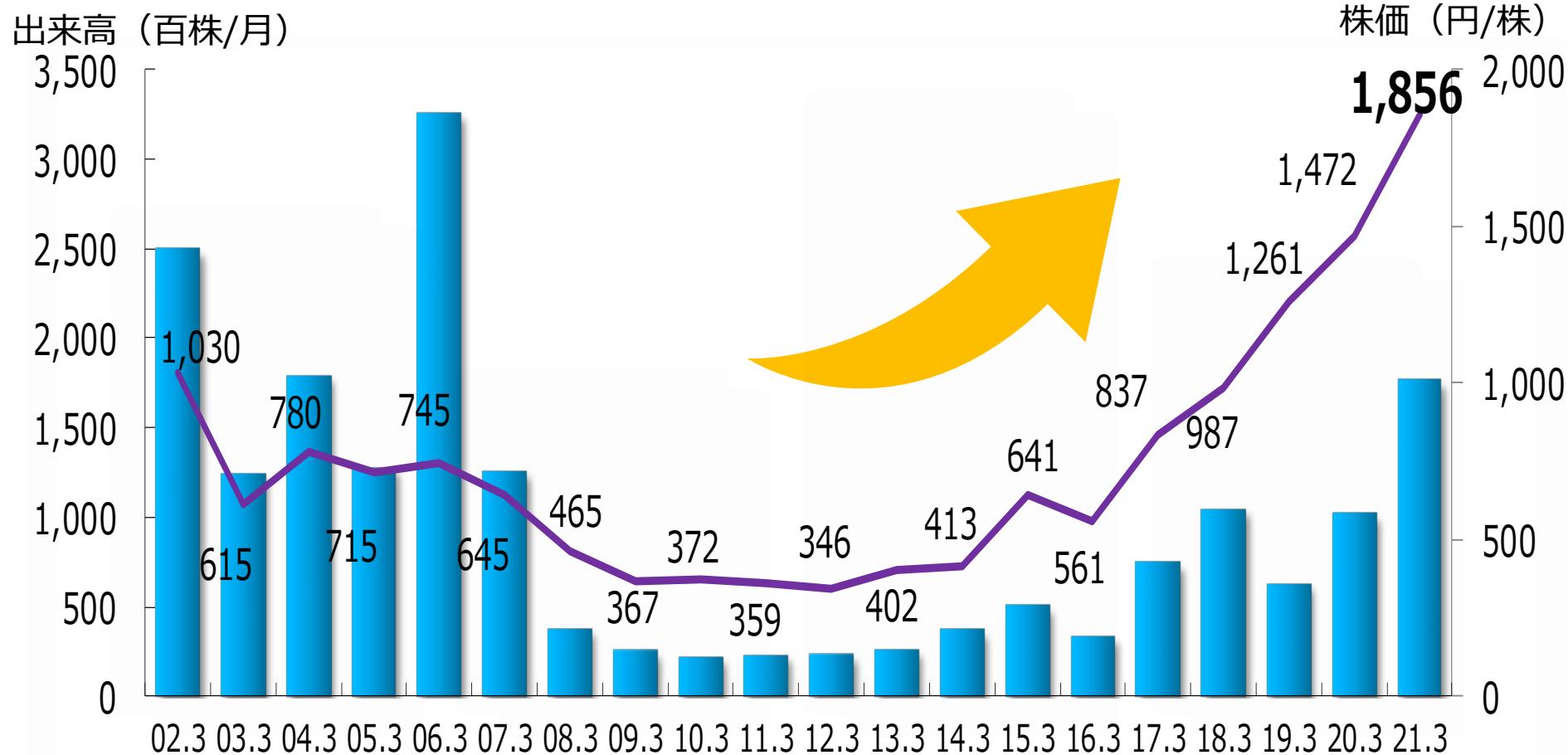
株式関連情報 -1. 基本情報



発行済株式総数	15,706,000株 (2021年4月1日に1:2の株式分割を実施)
株主数	3,170人(2021年3月末)
大株主	JFEスチール(株) 65.16% JFEシステムズ社員持株会 7.50%
時価総額	269億円(6/30終値 1,712円にて算出)
PER・PBR	8.68倍・1.32倍(6/30終値/'21見通し)
配当利回り	3.50%(6/30株価/'21予想60円/株)

株式関連情報 -2. 株価・出来高推移

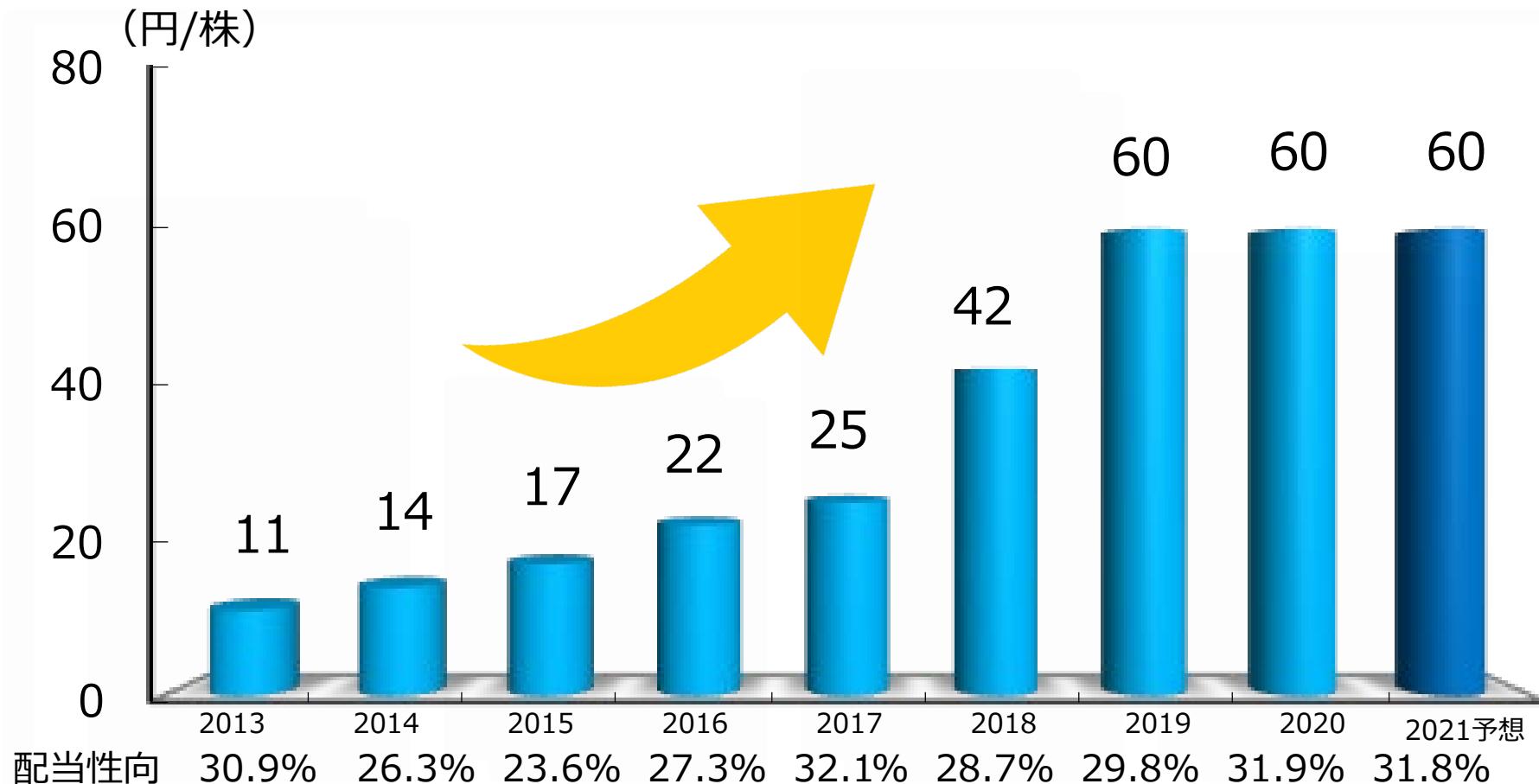
- ◆ 株価は一時期の低迷を脱し、近年は大幅上昇
- ◆ 出来高は低水準ながらも、近年の株価上昇にあわせて増加基調



株価は年度末終値(分割換算)、出来高は各年度の月間出来高の平均値

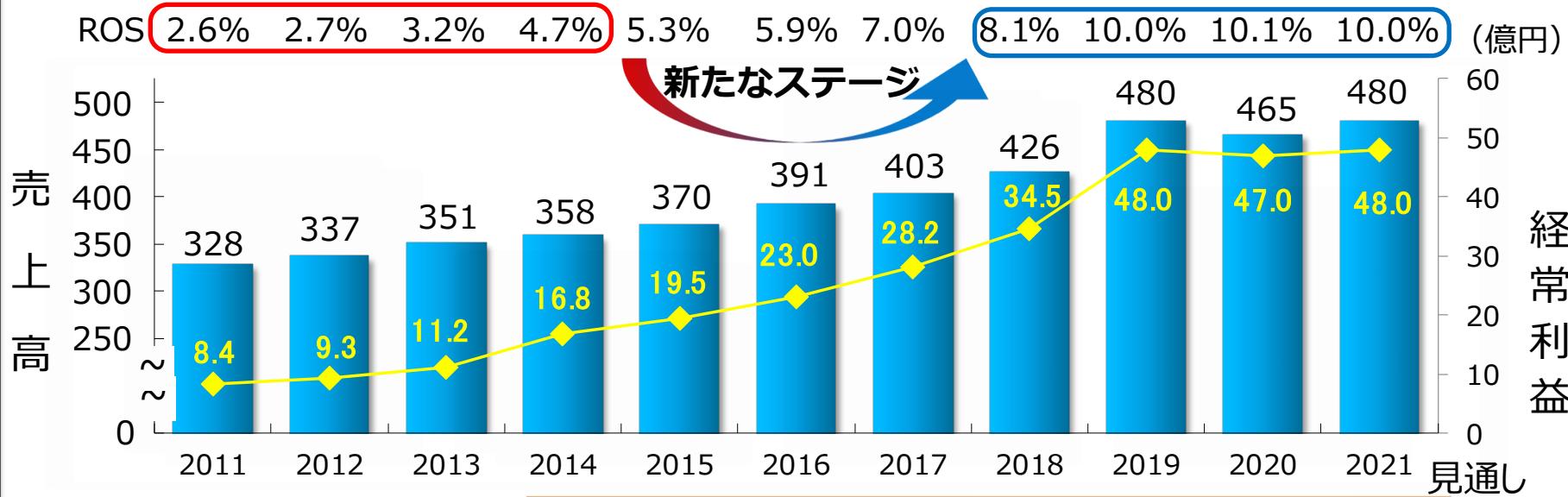
株式関連情報 -3.配当推移

- ◆ 前中期経営計画の初年度(2018)に「配当性向 30%目途」の方針制定
- ◆ 今期予想は3期連続の過去最高水準、5年前の約3倍に相当



1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント(＝新たなステージへ)
4. 成長戦略(次期中期経営計画)

この数年で安定・高収益体质を確立



人事施策への取組み

2014・女性活躍推進に着手
2015・働き方改革に着手
2018健康経営宣言を公表

事業環境・体制整備など

2015・JFEスチールが製鉄所システム刷新PJに着手
2015・ソリューション事業の強化
2017・基盤事業部発足
DX推進部の新設・2021

人事施策の取り組みの成果

情報通信産業は、装置産業(ex製造業)とは異なり、製造コストに占める“ヒト”的比率が高いことから、特に**人材確保・育成**に注力。

◆働きやすい職場環境の構築

- ・男性育休取得13%以上(女性;100%)の達成
- ・出産後の女性の1年以上の継続就業100%

◆女性活躍推進のための施策

- ・育児中の部下を持つ管理職向け研修（イクボス研修）の実施
- ・女性の継続就業を後押しすべくメンタリングを実施



◆「働き方・休み方改善活動」の展開

→総労働時間の削減

◆「心の健康づくり計画」=メンタルヘルスケアの充実



プラチナくるみん

社員の子育てをサポートする企業のうち、より高い水準で取り組む企業を認定



えるぼし

女性の管理職比率等、女性活躍に関する一定の基準を満たした企業を認定



健康経営優良法人

当社の取り組みであるメンタルヘルスケアの充実等が評価され3年連続受賞中

人事施策の推進と共に、**ガバナンス体制**の強化も推進。

◆ 取締役人員構成の推移

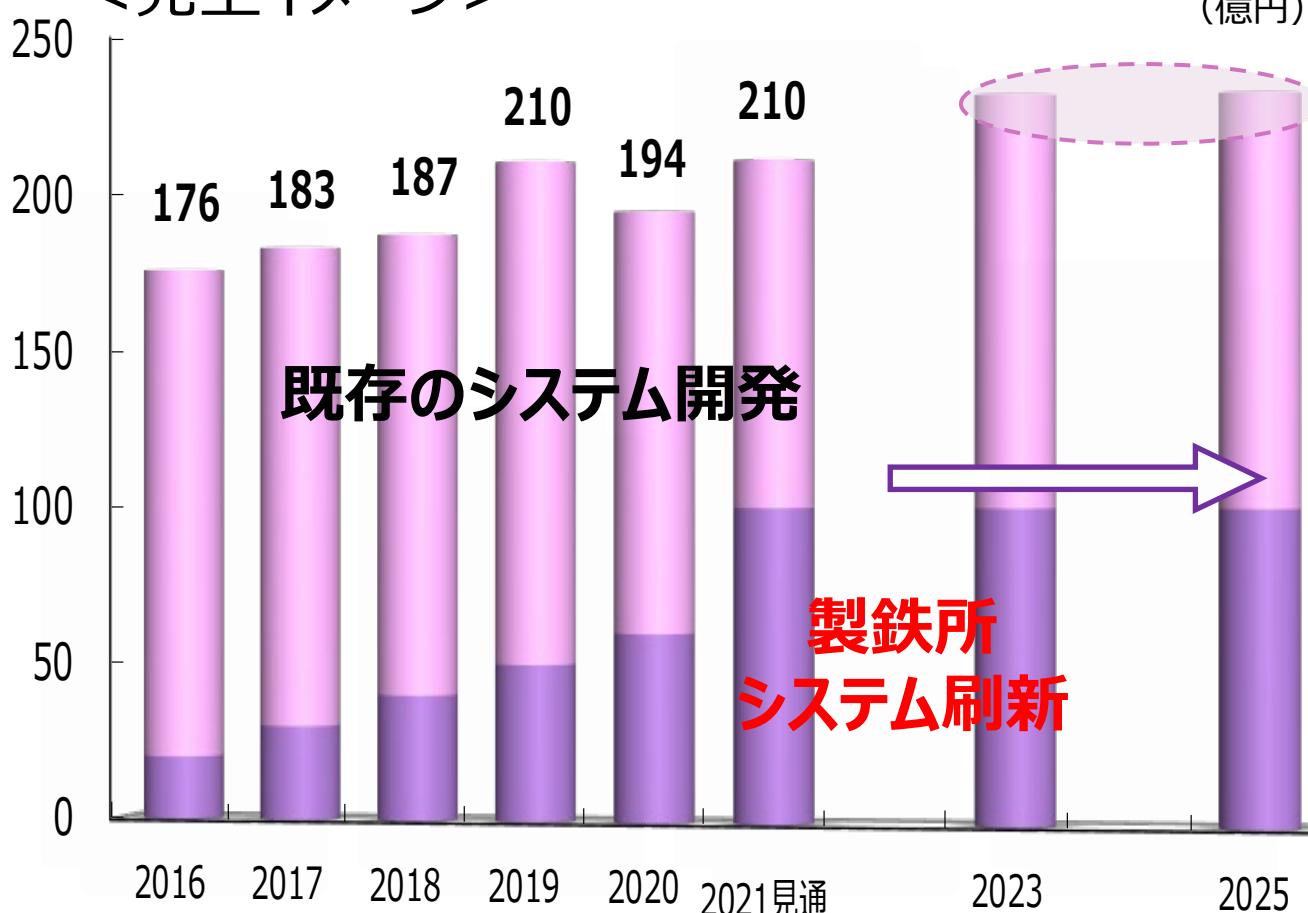


年 月	～2020. 6	2020. 6～	2021.6～ (現在)
社内役員(a)	8人	9人	7人
独立役員(b)	1人	2人	2人
比率($b \div (a+b)$)	11%	18%	22%

先月(2021.6)改定されたコーポレートガバナンス・コードにおいて、支配株主を有する上場企業は**独立役員1/3以上**とすべき、とされていることを踏まえ、更なるガバナンス体制の強化を進めていく。

「鉄鋼向け事業 = JFEスチールの事業環境」という構図から、今後数年は大規模PJ(製鉄所sys刷新)での計画的なシステム開発が継続予定

<売上イメージ>



景気動向で変動可能性あり



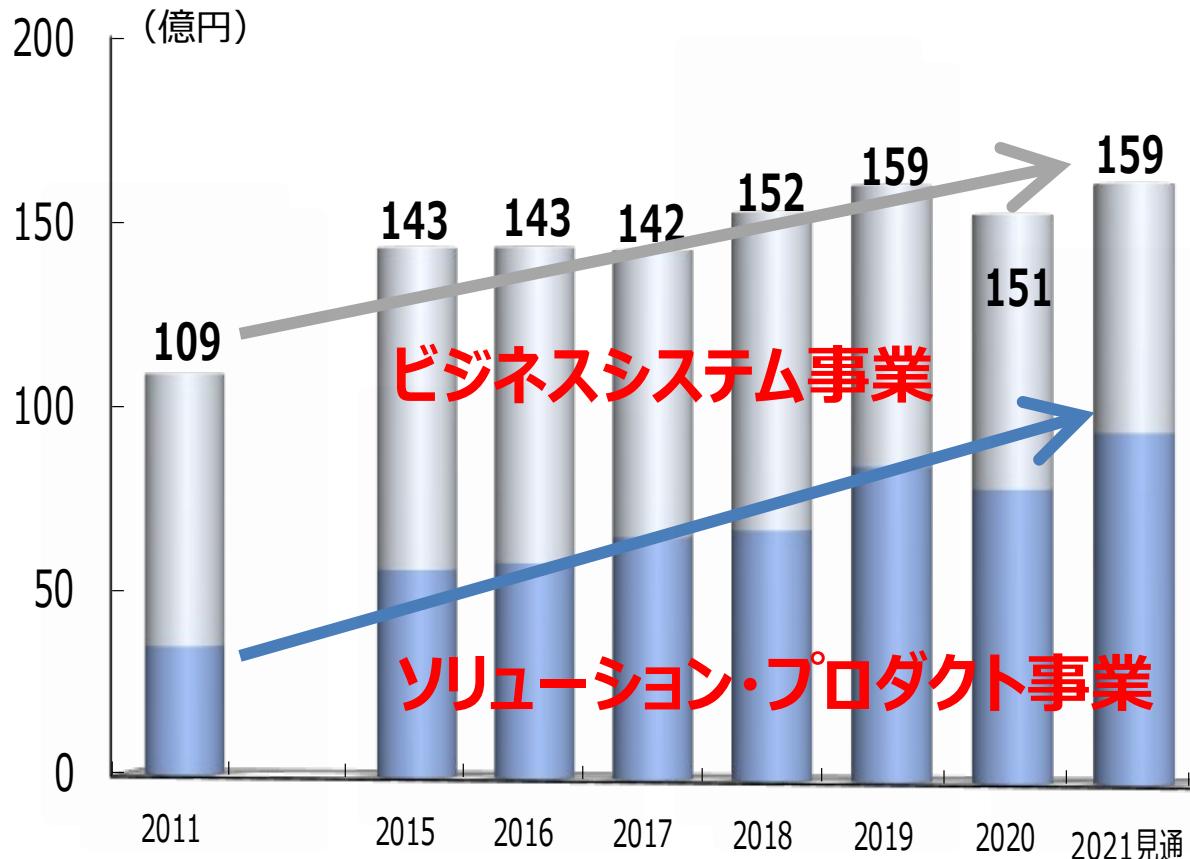
計画的なPJ推進を想定



一般顧客向け事業の見通し①

これまでの推移

顧客の要望をもとに開発を手掛けるビジネスシステム事業を維持・継続しつつ、ERP・パッケージを主体とした事業が急速に伸長



一般顧客向け事業
全体で

約 150%

うち、ソリューション・
プロダクト事業では

約 270%

一般顧客向け事業の見通し②



目指す方向性

ソリューション・プロダクト事業；時流に沿ったビジネスチャンスを捕捉
ビジネスシステム事業；先進的な顧客の取組みに呼応し、
新技術・ノウハウを蓄積

<事業イメージ>

ソリュー
ション・
プロダクト
事業



ビジネス
システム
事業



自動車



金融

世界標準のERP

2027年のサポート終了に向けた更新
需要を捕捉

電子帳票の自社パッケージ

コロナ禍でのリモートワーク需要を捕捉

食品商品情報管理の自社パッケージ

「食の安心安全」が注目される中、大手
食品メーカーを中心に高シェアを確保

ロード開発



新たな取り組み（DX）



JFEスチールグループを含む、製造流通業界向けのデジタルトランスフォーメーションの推進部署としてDX推進部を新設

J F E スチール



DX銘柄2020
Digital Transformation
6年連続受賞中*
(JFEHD)

JFEグループ各社



JFE以外の
製造・流通業顧客

J F E システムズ

D X 推進部



コグニ
ティブ

UX

予知・
予測

最適化

鉄鋼部門

一般顧客
部門

⋮



自前での新分野・新技術の開拓だけでなく、
豊富な手元資金を活用し、M&A等を通じ、
加速度的な事業拡大も可能



1. 会社・事業概要と決算情報
2. 株式関連情報（株価推移・配当等）
3. 当社のセールスポイント(＝新たなステージへ)
4. 成長戦略(次期中期経営計画)

次期(7次)中期経営計画(2022-24)について



各事業部門にて、10年後の生き残りのための企業体質強化に向けた具体策を検討中。(2022年4・5月頃公表予定)

担当部門

鉄鋼部門

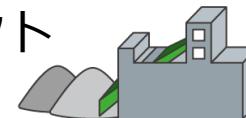
一般顧客ソリューション・プロダクト

一般顧客ビジネスシステム

基盤部門

7次中期経営計画の方向性

- ・製鉄所システム刷新プロジェクトの積極推進
- ・JFEの最適生産体制構築への対応



- ・DX関連事業の強化・拡大
- ・ソリューションラインアップ拡充



- ・引き続き、各事業の強化・拡大を推進



- ・基盤サービス事業の更なる拡大
(一般顧客向け拡販を含む)



近年の各種施策への取組み、事業環境の好転・大規模PJ等により、収益水準は新たなステージへ **[500億円規模・ROS10%]**

好調な事業環境・収益の下、**配当も過去5年間で3倍に！**かつ安定配当を指向。

鉄鋼向け事業は、大規模プロジェクトの遂行で、**景況に影響されない一定の売上確保**が見込める状況が継続する見通し

新たな分野への取組みの母体として**DX推進部**を新設。**豊富な手元資金を活用し**、新技术・新分野への加速度的な事業拡大も可能

ご清聴ありがとうございました

JFE システムズ 株式会社 [4832]

(ご注意)

本資料の将来の業績等に関する見通しは、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、見通しとは異なる結果となることがありますことをご承知おき願います。

質疑応答